

**令和3年度（令和3年度取組実績分）
教員活動状況評価 実施報告書**

1. 教員活動状況評価の目的

「教員自らが教育研究等の状況を点検・評価し、向上を目指すことにより、大学全体の能力向上、活性化を推進させること」及び「教員の活動状況及び評価結果の公表により、社会に対する説明責任を果たすこと」を目的に教員活動状況評価を実施。

2. 評価の対象者

対象者：令和3年度に在籍する専任教員（全職位）

※関連規程により対象外としている教員を除く

3. 評価の項目

- 1) 教育（講義時間数、授業への取組・改善等、学生指導・研究指導等）
- 2) 研究（著作物、学会発表、研究資金等）
- 3) 社会・地域貢献（建学の精神に基づく社会・地域貢献、公開講座、社会人教育、関連機関・地域住民との関わり、産学連携等）
- 4) 大学運営（入試・広報活動、役職・委員会活動等）

4. 評価の方法及び結果の通知と活用

1) 評価の方法

学長を長とする教学マネジメント会議において、上記4項目ごとに設問を定め、設問内容により取組の有無（自己評価）、又は実績数値にて回答。また、令和元年度よりティーチング・ポートフォリオの提出を実施。

2) 結果の通知

質問項目に関する回答を集計し、全教員の平均値（全体及び職種平均）と各教員が回答した数値を比較可能な様式で結果を各教員へ通知。

3) 結果の活用

・4項目アンケート

全教員に対し、結果の通知を受けての自己評価（自由様式）の記載を依頼し、自らの取組み状況の振り返りと今後の積極的取組みを促す。また、教学マネジメント会議で審議の結果、優秀な評価となった教員（各職位1名）に対しては表彰を実施。研究項目については研究費の傾斜配分へ活用。

・ティーチング・ポートフォリオ

学内公表（学内サーバーへの保管）により、他の教員の取り組みの情報共有を行い、大学全体の教育の質向上を図る。

4. 結果

各設問項目に評点を定め、取組を実施した場合に評点を加算、各職位の平均得点率は表1のとおりである。

「教育」に関して、表1に示すとおり高職位者（教授、准教授、講師）が高い得点率となったが、これは、質問項目に高職位者のみ対象となる設問（大学院主指導院生数等）を含むことも影響しており、全職位を対象とする「科目レベルの点検作業（PDCAサイクル）の実施」「ティーチング・ポートフォリオの作成」「学修・キャリア支援」の項目では、職位を問わず多数（質問項目により70～100%）の教員が実施していると回答、全体として授業改善・質向上、学生支援に向けた積極的取組が行われている。

「研究」に関しては、教員間における取組に差が見られる結果となった。

「社会・地域貢献」では、「建学の精神に基づく奉仕活動に携わった」の項目に約80%が携わったと回答、今後は、自身の奉仕活動のみならず、学生の参画を促し、対話や省察を通じた建学の精神に基づく教育的関わりも期待される。

「大学運営」に関しては、「教育」と同様、高職位者が主に対象となる項目が含まれるため、高職位者が高い得点率となった。一方、全ての職位を対象とした入試広報活動（建学の精神、教育理念を理解した上でアドミッションポリシーを踏まえた本学への入学を志す学生への入試広報活動）においても高職位者が高い得点率となる傾向にあり、今後は各職位に応じた全学的取組が期待される。

上記（個別項目）は評価の一例であるが、今後も、教員の自発的活動を促し、結果として大学の質向上へと繋がる有用な評価制度へと見直しを実施し、また各教員においても、今回の評価を受け、自身の活動の振り返りの機会とし、引き続き積極的活動に取り組むことに期待したい。

表1：職位別平均得点率

	教育 (44点)	研究 (34点)	社会・地域貢献 (34点)	大学運営 (21点)	全体 (133点)
教授	59.7%	24.8%	51.7%	50.3%	47.3%
准教授	62.8%	24.8%	47.1%	44.6%	46.2%
講師	59.7%	7.0%	56.6%	28.6%	40.5%
助教	50.3%	8.4%	41.2%	15.6%	31.8%
助手	40.9%	31.6%	27.9%	7.1%	29.9%
全体	56.9%	18.6%	46.7%	33.8%	40.9%

※（ ）は各項目の満点（基準点）。但し、取組加点によっては、満点を超える場合がある。

※教育及び大学運営では、特定職位（高職位者）のみを対象とした質問項目を含む。

※上記算出対象教員数は、教授7名、准教授8名、講師4名、助教7名、助手2名